

毎年の夫の会社の主婦検診で首の辺りが少し気になるので、精密検査を受けることを勧められました。何の違和感もなく、体調も悪くはありませんでした。なのに、結果は甲状腺がんでした。

すぐには、病名を受け入れられませんでした。両親も姉弟もがん患者ではありませんでした。告知を受けた病院に甲状腺の専門科が無い事もあり、他県の病院で再検査を受けました。結果はやはり、甲状腺がんでした。

患者が多く手術は一ヶ月半待ちでした。甲状腺がんに付いての知識が全くなく、「がん」という病名を聞いただけで頭の中が真っ白になったまま、調べようという気にもなれず、告知を受けた日から時間が止まった様な日々を過ごしていました。食事でも喉を通らず栄養補助食品をかじっている日もありました。体調も良いわけがありません。手術日が近づき精神不安からの微熱が続き、手術前から床についてしまいました。

お医者さま方にご迷惑をかけながらどうにか手術を終え明日に向かって生きていけるはずなのに、そういう気持ちにはなれませんでした。

17年間ずっと検診を受け続けた乳がんの疑いです。検診の度に乳腺症といわれ続けた乳房のしこり。もしかしたら？「これもがん？」

甲状腺の手術から1ヶ月後乳がんの手術を受けました。転移ではなく単発のがんでした。続きざまに「がん」の告知を受け、先月も今月も全身麻酔の手術を受け来月はどこが「がん」におかされるのだろうか？等々こうなると良い事や明るいことは何一つ考えられませんでした。家族によくもそこまで悪い方へ考えられるネ！？と呆れられるほどでした。

日本人の2人に1人は「がん」になる時代だからネ！他人にはそう言えるし、わかっていたはずなのに。いざ自分が告知を受けるとそういうわけにはいきませんでした。自分が、「がん」であることを受け入れるまでの間、辛く真っ暗やみの中にいました。今も、先のことを思うと辛くなる時もありますが、ほんの少しですが、「生かされている命」を感じています。

患者会等に出向き一人ではない事を感じ活力にしています。患者にしか伝わらない感情も体調もあります。「がん」になって初めてわかる事がたくさんあります。

とにもかくにも、私、二つの「がん患者」ですが生きています。これからも、「がん」とケンカしないで、仲良く共存しながら過ごそうと思っています。